

## 仙台東部支部、気仙沼・南三陸支部 支部間交流活動の概要について

■開催日程 令和元年10月23日(水)～24日(木)

■施設見学コース 仙台→県気仙沼合同庁舎(大島架橋説明)→昼食(気仙沼海の市)

→気仙沼大島大橋→龍舞崎→亀山→気仙沼大島大橋(帰路・車下車徒歩)→●宿泊:気仙沼H観洋→気仙沼魚市場

→気仙沼向洋高旧校舎・伝承館(※ここから気仙沼・南三陸支部合流)→杉の下遺族会関係慰霊碑

→岩井崎→昼食(はまなす海洋館)→大谷海岸→休憩(遠藤家)(※交流活動ここまで)

→南三陸町(さんさん商店街)→仙台

■参加者数 12名(なお、気仙沼・南三陸支部は5名参加。合流時は計17名)

※気仙沼・南三陸支部の皆様は、気仙沼向洋高旧校舎・伝承館から、大谷海岸まで合流。

■コメント

●今年、気仙沼市の大島架橋(気仙沼大島大橋)等を中心に気仙沼方面の復興状況を見学しました。(昨年実施した石巻市や女川町の県北沿岸部復興状況の続きとして)。今回は台風19号による県内の被害が凄い状況なので、非常に気掛かりでしたが、一日も早い復興等をお祈りしながらの施設見学会でした。

●気仙沼の大橋架橋(県気仙沼合庁で事前説明を受けて)は見事に完成しており、参加者のほとんどは初めての渡り初めて、帰りは車から降りて歩いても渡りました。また龍舞崎と亀山にも行きました。特に亀山は、頂上から大島架橋や三陸沿岸道路(気仙沼道路)の建設中の橋桁等を見てとれて、気仙沼市地域の復興が力強く進んでいることが感じられました。

●二日目は、気仙沼魚市場を早朝見学し、カツオの水揚げとセリを丁度行っており、その活気に触れて、水産関係も復興して来たことを感じ取った次第でした●その後、気仙沼向洋高校旧校舎・伝承館からは気仙沼・南三陸支部の方々と合流し、施設内では、東日本大震災の悲惨なビデオの視聴や校舎の3Fに流れ着いた自家用車等の残骸を通して、津波の凄まじい被害状況等を確認でき、また気仙沼・南三陸支部の方々からも説明を受けました。

●また、近くの「杉の下遺族会の慰霊碑」等にも案内され説明を受けましたが、津波の非情さや悲しみをひしひしと感じ、改めて津波に係る防災意識の継続の必要性を感じました●その後、大谷海岸地区での昼食時には、気仙沼・南三陸支部の方々との懇談し親睦を深めました。

●午後からは、大谷海岸地域の復興工事について、現地にて気仙沼土木事務所担当者から、大谷海岸の津波浸水区域の被災状況の大きさや復興工事の着手にこぎ着けた迄の地域住民の方々との話し合いの経緯等の説明を受け、県等の努力姿勢が伺い取れることが出来ました。

●最後に、南三陸町のさんさん商店街に立ち寄ることで、南三陸町の復興や往復通行した三陸自動車道の便利さや素晴らしさ等も体感できました●今回、震災で津波被災した気仙沼市等の復興を強く感じた施設見学会でした。本年も支部長や担当部長等の企画・実施における努力や、関係県機関の御協力、気仙沼・南三陸支部との交流、元支部長からの暖かいバックアップ、参加会員の参加努力により、充実した勉強会オンパレードの施設見学会でした。



(於・県気仙沼合庁)



(於・気仙沼海の市)



(於・大島架橋)



(於・気仙沼向洋高旧校舎)



(於・気仙沼H観洋)



(於・本吉海岸地区の遠藤家・蔵)